

続100名城に滝山城

八王子 選定2か所目

武田勢防ぐ守りの要

4月6日は「城の日」として、公益財団法人日本城郭協会は「続日本100名城」を発表、多摩地区からは八王子市の滝山城が選ばれた。同市では八王子城に続く2か所目の選定。都内ではこのほか「品川台場」が選ばれ、江戸城と合わせ名城は4か所となった。

同協会が2006年に発表した「日本100名城」に続き、全国の推薦地点から、知名度や歴史的な重要性などから選定した。

滝山城は16世紀前半の築城。のちに北条氏康の支配



続100名城に選定された滝山城跡の中の丸広場

下となり、三男・氏照が大改修して武田勢の侵攻を食い止めるなど、土地の守りの要となった。櫓や堀などはないが、土塁や堀の跡が地形として残っている。

地元の滝山城跡文化協会、加住地区町会などが季節の草刈りやボランティアガイド、甲冑隊の再現などに取り組み、保全とPRに努めてきた。同市も昨年、先端IT技術を生かしたAR(拡張現実)システムを導入。専用アプリを入れたスマートフォンを城跡一帯の指定ポイントでかざすと、櫓や城壁、甲冑武士団が実際の風景に溶け込んで見えるようにした。

中世の山城として、複雑な構造と里山の景観から全国的にファンも多い。ボランティアガイドなどとして滝山城跡の保全とPRに携わる同市散田町の矢島尚司

さん(70)は、転勤が多く全国を城を見てきた経験から、スケーリングの大きさといいい、複雑な守りのからくりといいい江戸城の原型ともいえる名城」と胸を張る。

今回の選定について、滝山城跡文化協会の高橋清一(会長72)は「前回の落選はくやしかった。あらためてすごい城だと思ふ。各団体が力を合わせて盛り上げた結果で、本当にうれしいビッグニュース」と喜びを語った。

石森孝志市長は「市内の二つの中世城郭が名城として選定されたことは光栄。これからも史跡の保護、活用に積極的に取り組みたい」とコメントを発表した。

8日には、桜も見頃を迎えた城跡内の中の丸広場などで「滝山城跡桜まつり」が開かれる。午後1時から江戸幕府の家臣団「千人同心」の装束に身を包んだ武士団による火縄銃の発砲披露、甲冑隊の行列が予定されている。ファンや地元住民らにはうれしい祭りとなりそうだ。